

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	株式会社 はまゆう		
事業所名	グループホーム あけぼの苑 B棟		
所在地	宮崎市田野町あけぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	R1.12.9	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和2年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切にしながら、多くの人と関係性を持ち、認知症一人一人が役割を持ち続けながら、穏やかな雰囲気与生活をしていく。
------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	棟別で介護理念の見直しを行い、職員の意見や考えをアンケート方式で提案し、構築に取り組んだ。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実習生や見学者の受け入れは常に行っている。夏祭りでは多くの地域の方々が来苑され、盛況であった。又、月1回で、「傾聴ボランティア」や「ほほえみ紙芝居」のボランティアの方が来られて交流出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周囲には自治会もなく、地域の方々への発信する場が少ない為、取り組みが難しい状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多職種の方々に出席して頂き、色々な意見をもらいながら、サービス向上に活かしている。(利用者様ご家族・JA田野・包括支援センター・民生員・地域の方)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長は機会ある毎に、総合支所や包括支援センターへ出向き、現状報告等をする事で、協力関係を築けるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修会がある度、職員が参加している。 ・身体拘束委員会があり、定期的に現状報告・検証・見直しを行い、その結果を職員全員で共有し、正しい理解と意識づけに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会に参加した際は、ケース会議で発表・報告を行い、虐待が見過ごされない様に取り組んでいる。 ・棟別会議では、言葉づかいや自分達の対応について振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の権利擁護や成年後見制度の研修に参加し、全体会議にて勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、締結・解約共、重要事項を使用し、より理解できる様、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会にて、利用者や家族、地域の意見を聞き、全体会議にて全職員に反映させている。また、玄関に家族等の意見を議事録とし、誰でも閲覧できる様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議に参加をし、意見を聞き、疑問が強いスタッフには個別に意見を聞き、まとめて全体会議にて反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績、勤務状態により、給与一覧表により見える化を行い、キャリアアップできる環境を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフと管理者が、定期的に面談をし、力量を把握をし、法人内外の見合った研修を促して、トレーニングをしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	わくわく介護塾協議会、グループホーム連絡協議会や地域のたこの会へ参加できるスタッフには促し、他の施設の職員と交流し、ネットワークづくりや勉強会に参加して質の向上へ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、声かけや本人に寄り添うよう努力し、本人の言葉が引き出せるように努めている。本人の行動力・表現に注意を払い、不安や要望に気付けるよう努め、安心して過ごして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入居後、面会時ご家族の要望や不安等に耳を傾けながら、又、担当者会議を通して、本人の様子・要望等をご家族に伝える事でより良い関係づくりができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを中心にし、積極的な窓口となり、本人・ご家族の意見・要望を聴き、管理者・担当者・他職員との情報共有に努め、必要とする支援を見極め、サービス利用にも対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしている同士の関係を築けるように、中庭の野菜畑の作物の収穫を一緒にしたり、食材を一緒に下ごしらえたり、エプロン畳み、テーブル拭き等をして頂きながら、職員と本人との支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援を頂きながら、本人と家族の絆が保てるよう、外出等の協力を仰いだり、面会時に本人の日々の様子や健康面等を伝え、共に支えあえる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のレベルの低下などもあり、以前のように定期的ドライブは困難になっているが、出来る限りと外の空気を吸って頂いたり、家族への声掛けを行い、外出支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあう利用者同士を見極めて、良い関係づくりができるように支援に努めている。時々職員が間に入る事で、共通の話題が引き出せるように努め、孤立せず過ごせる支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、ご本人・ご家族の要望に応じて、いつでも相談や支援が出来るよう努めている。他の施設へ移られた際にも、ご本人のそれまでの生活面・健康面・ケアについての情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやケース会議又は、担当者会議等により、本人の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に生活歴等、話していただいているが全部を話してくださらず、面会時に少しずつ話して下さるようになる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、小さな変化(笑顔が増えた等)を捉え、プランに繋げ全くプランに添わなくなったら削除したりの繰り返しである。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者とのモニタリング・ケース会議・毎日の申し送り等により、現状把握を行い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の実践記録により、実践されているか、いないかを把握し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居されて「癌」が見つかり、訪問看護の開始、毎日の家族の面会と通常と変わったニーズが発生、全職員でサービスの多機能化に対応した。(家族の対応が難しかった)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回…傾聴ボランティア・紙芝居 2か月に1回…美容師に散髪依頼 年に1回…実習生の受け入れ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人・ご家族の希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診を基本としている。 ・専門医での受診(歯科・皮膚科・泌尿器科・眼科)も各々のかかりつけ医に行かれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた状態変化や異常は、その都度すみやかに上司(看護職)へ報告・相談し、本人・ご家族の希望を重視しながら医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が不安・ストレスを感じる事なく、安心して治療ができるように、ご家族・医療機関との情報交換は積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成しており、担当者会議で家族は十分に説明を行い、理解して頂けるように取り組んでいる。 「かかりつけ医・協力医療機関」への相談も行い、指示等を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ないが、機会ある度に対策を話し合っている。発生時には慌てず、適切な行動がとれるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の定期的火災・避難訓練を行い、又自主的施設職員の訓練も行っている。 ・地域や近所の方々に夏祭りの案内を出し、施設に来ていただき、その都度顔なじみの環境づくりを行い、緊急時の御願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重に努め、その方の歩んでこられた人生を理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応をするように日々職員で話し合い努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が少しでも引き出せるように日常生活の中で寄り添い、話をする機会を作る努力を日々職員で取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、一人ひとりのペースを大切にしよう努めているが、午前中約1時間程は、利用者同士の交流と健康維持を目的とし、体操・歌・ボール遊び・歩行訓練を実施している。 午後は利用者それぞれの過ごし方をして頂いている。 (数人の方は1時間程午睡、又はパズル・DVD鑑賞)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに関心のない方が多くなっている中で、行事や外出時、本人の希望を聴き、出来る限りのおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。 日々身だしなみには心配りをし、その人らしく過ごして頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭に家庭菜園を作り、四季折々の野菜を育て、一緒に収穫し調理して、食事時提供している。下ごしらえも快くして下さる利用者がおられ、職員と一緒に楽しんで行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏った食事にならないように、栄養バランスに配慮し、一人ひとりに合った量・形態を提供している。水分量は毎日記録し、栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアは毎食後に実施している。 ・その人に合わせた介助・支援を行っている。 ・必要に応じて、舌ケアも行っている。 ・義歯消毒は利用者によって、毎日の方、2回/週の方がいるが、基本1回/週(月)実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、トイレの声掛け・誘導を行い、気持ちよく過ごせるよう支援している。中には夜間オムツ、日中布パンツで過ごされる利用者の方もいる。頻回に行かれる方の対応は難しい状況にある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを記録し、利用者様一人ひとりに合わせた緩下剤や坐剤をかかりつけ医・協力医療機関へ相談し、処方して頂いている。職員同士が申し送り等で緩下剤や坐剤が必要などかのコントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を希望される利用者はいないが、入浴を拒否される利用者様に対しては無理に入浴を実行するのではなく、順番を変えてみたり、その日は中止したり、2名対応してみたり等、利用者様へ不快感を与えないよう工夫し取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた生活リズムを考え、午前中はレクリエーションの活動・歩行運動を実施し、午後は疲れた体を少しでも休んで頂けるように1時間程臥床をして頂く時間を設けている使用者様も数名おられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は利用者様の内服薬の目的・副作用・用法についての理解に努めている。服薬チェック表を利用するようになってからは、より安全に服用して頂けるようになった。今まで以上に確実に誤薬予防にも繋がっている。服薬後の症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々、それぞれの生活歴等を考慮し、出来る限りその方に合った楽しみ方や、役割ができる様支援を行っている。残存している能力などは、十分に発揮できる環境づくりにも力を入れ取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のレベル低下が進み、外出が困難な状況になっている中、今年は年間行事の一環である紅葉狩りに全員参加で取り組み、無事何事もなく楽しんで外出が出来た。初めから無理だと決めつけずに、日常生活の中でも、本人の希望を重視し、今では苑庭に出られ、楽しみを感じる利用者様もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のレベル低下に伴い、お金の関心が見られなくなっている。しかし中には自分の欲しいものを要求される利用者様もおられ、家族に相談しながら少しでも本人要求に応え、お菓子やコーヒー等の購入をして頂き、提供することで喜びを感じて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様方の申し出や、要望がある際には、家族に電話をし、本人の要望を伝え、電話を終えた後にはしっかりと本人に家族の言葉を伝え、本人が寂しい思いをせず安心して生活ができるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、ホールで過ごされる利用者の方に於いては、席の配置、テレビが良く見える場所へ移動させたり等、ゆったりとした時間を過ごして頂けるよう努めている。又、季節に合った飾りつけや空調の設定などにも気を配り、居心地の良い環境づくりにも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方々がそれぞれ思い思いの時を過ごせ、緊張感や不安な気持ちにならないよう、ゆったりとした時間、楽しめる時間等が提供できるよう努めている。中には台所に立ち、料理の盛り付けなどを手伝って頂き、温かい家庭での雰囲気づくりにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ人形や、家族の写真、家族からの手紙などを飾り、居心地よく過ごして頂けるよう努めている。利用者の方によっては、シンプルな空間を好まれる方もおられ、一人ひとりに合わせた居室づくりを提供し、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、手摺りの設置、夜間はセンサー式照明の設置、各居室には分かりやすいようにそれぞれの花の名前を表示している。その中でも一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして自立した生活が送れるよう工夫に努めている。		